

水面月

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

彼女は

初めから

堕ちていた





彼女は

初めから

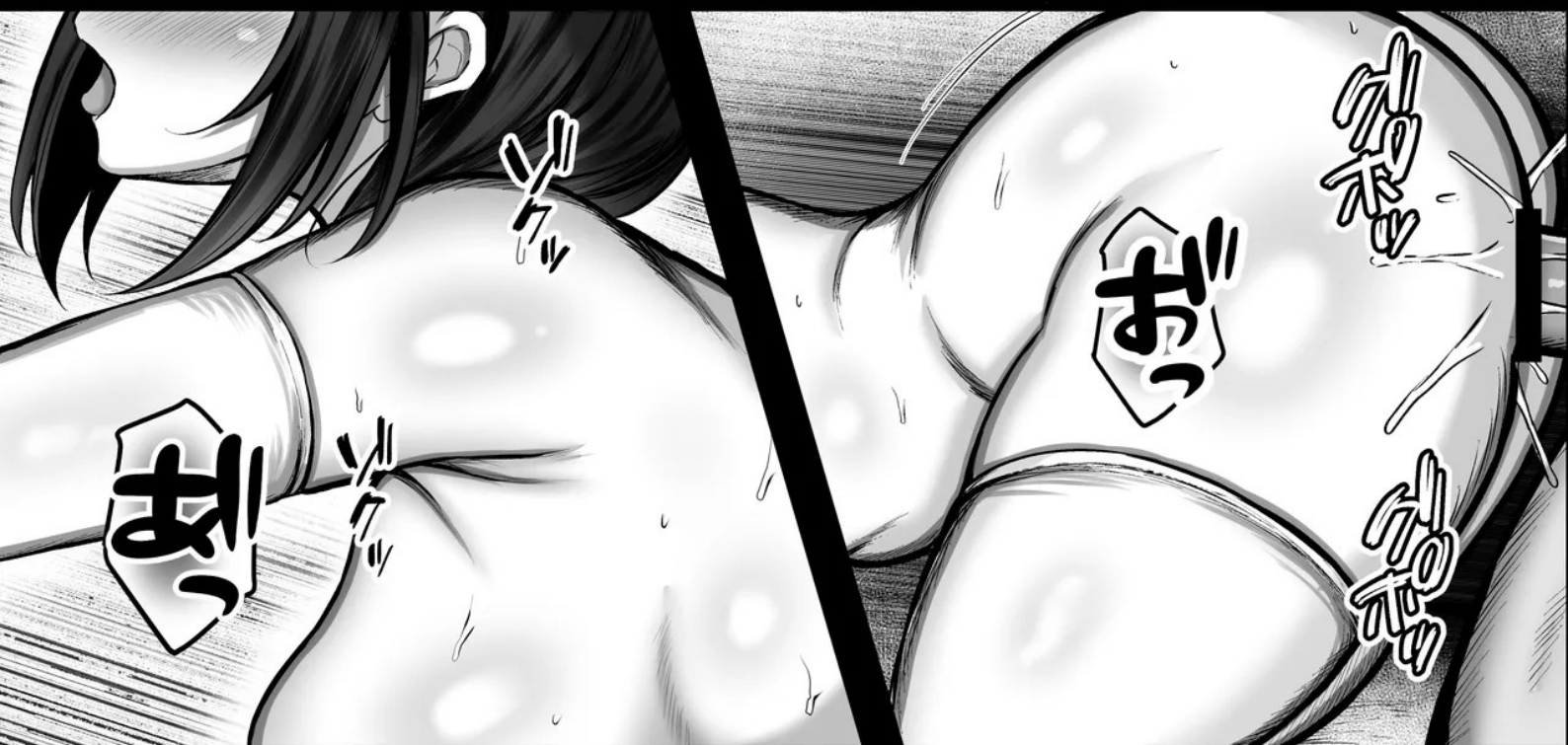
堕ちていた

過去を変え
られるとしたら

あ、

ん、

そんなことを
何度も何度も
考えていた



だけどふと気づいた



でもどれだけ考えても
現実にはなにひとつ
変わらなくて



もし過去が
変えられるとしても

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡



はっ♡

はっ♡

わたしは
きっと...



相手は同じクラスの
有田くん

出席番号が近いから
よく一緒になることが
あって他の男子に
比べれば接点はあったけど



綾瀬さんっ
僕と付き合っ
てください！

それは本当に
突然のことだった

生まれて
初めての告白

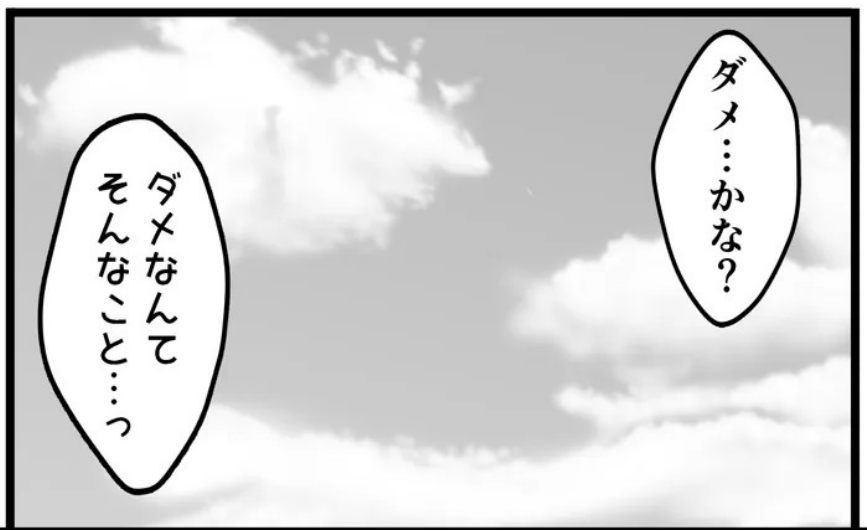


わ：わたしなんかで
よければお願い：します

思ってもみなかつたけど
憧れはあったから



でもだからって
私みたいな地味で
暗い女が男の子から
告白される日があるなんて
思ってもみなかつた



ダメ…かな？

ダメなんて
そんなこと…っ



私たちは初めてのキスをした

それからの毎日は
本当に楽しかった



彼は真面目で
優しくて

いつも笑顔で
私のそばにいてくれた



綾瀬さ…
真冬ちゃん

放課後の公園で
初めて名前を
呼ばれた日



たぶん彼にとっては…



でもいつかは――

あれ？
真冬ちゃん？



わたしには
秘密があった

それじゃあ
また明日

うん…
また明日



言わないと
いけない

そう思いながらも
私は伝えられずにいた



そんな優柔不断な
わたしの前に
秘密の方から
やってきました

先…輩？

やっぱりそうだ
久しぶりい♪

引っ越して以来だから
もう一年になるのかあ

あの…どうして
先輩がここに？

また親父の異動
転勤族を親に持つと
子供は苦労するよ

ていうかいま
一緒にいたのって
もしかして彼氏？

……

いやあ
あのぼっちだった
真冬ちゃんが
成長したねえ♪

でも彼氏くんは
知ってるの？







それにしても
ツイてるわ

引越しの片付けやら
なんやらで最近
すっかりご無沙汰で

適当にナンパして
発散しようと思ってた
矢先に真冬ちゃんと
再会できちゃうなんて♪



まさかここまで来て
帰るとか言わないよね？



あ…あの…
やっぱりわたし…



こっちはもう
やる気満々で
テンションマックス
なんだけどさ

で…でも…



ていうかもぅ
我慢できねえわ

あっ!

これこれ!
このえっろい
身体!

あっ!
はあっ...ッ

この触り方...
思い出しちゃう

っーか明らかに
一年前より
成長してるよね?

身体が
あの頃の...ッ



イツちゃうッ!

ははっ：
相変わらず
イキやすい身体
してんねえ

それじゃあ
そろそろ
お待ちかねの…

ハッ

ハッ



断らないと..
いけないのミヤ

アソコが
欲しがってる

ほら入っちゃうよ?

くちゅっ

くちゅっ



セックスタイムと
いこうか♪



って
ガン見しすぎw

完全にスイッチ
入っちゃった?

ダメ...ッ





ああっ!

ちんぽ欲し
がっっちゃってるう!

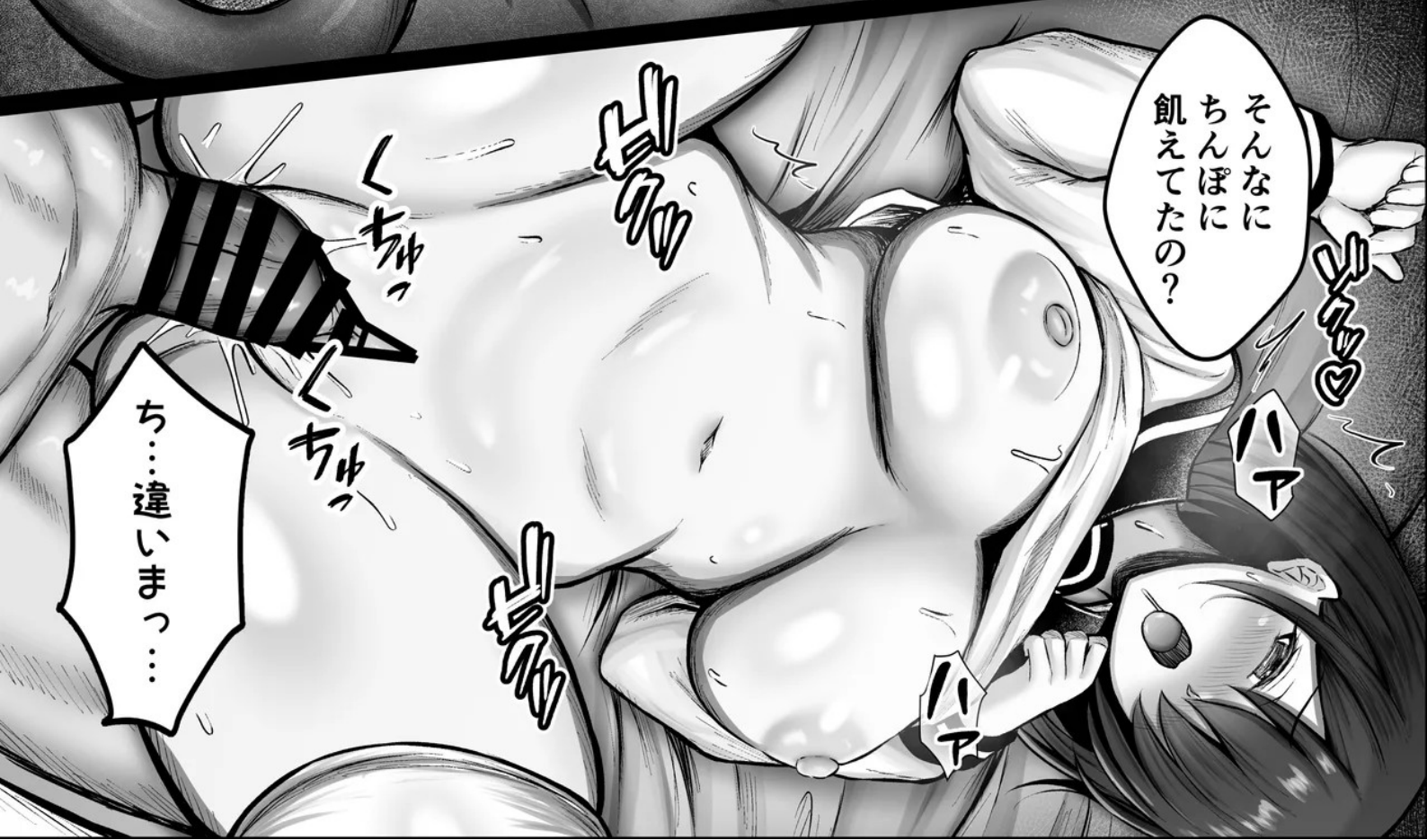


エッぐう…
どろっどろ
じゃねえか

あっさり奥まで
啜えこんで
おきながら

キーン♡

ギューギューに
絡みついて
きやがってさあ



そんなに
ちんぽに
飢えてたの?

ハア

ち…違いまっ…



違わなく
ないだろッ

おおんっ!

ほら言ってみなよ
ちんぽ気持ちいい
ですってさあ

あっあっあっ!



言わないと
抜いちゃうぞ

こんな中途半端な
ところでお預け
くらって我慢
できるわけ?

はーっ♡

む…無理ッ

はーっ♡



気持ち…
です…

聞こえない

こんなところで
終わっちゃったら
おかしくなるッ

ガチュッ

ガチュッ

ガチュッ



よく言えました

ヤッ

先輩のちんぽ
気持ちいいですッ！



気持ちいいですッ



ほらご褒美だッ

ド
チュ
♡

んあ



俺はそんなこと
ないから心おきなく
よがりなよ♪

そなたっ…

ははッ
下品な声
あげちゃって

彼氏が聞いたなら
軽蔑されるかもねw

あゝ♡

あゝ♡



そんじゃあ
こっちも一発
いっとくかッ

おっ…イキそう?

あゝ…ダメ
もうっ!

あゝ

バキッ

バキッ



ドッ
ドッ♡

ドッ♡
ドッ♡

イッくうう!

ドッ
ドッ

ドッ
ドッ

ドッ
ドッ
ドッ

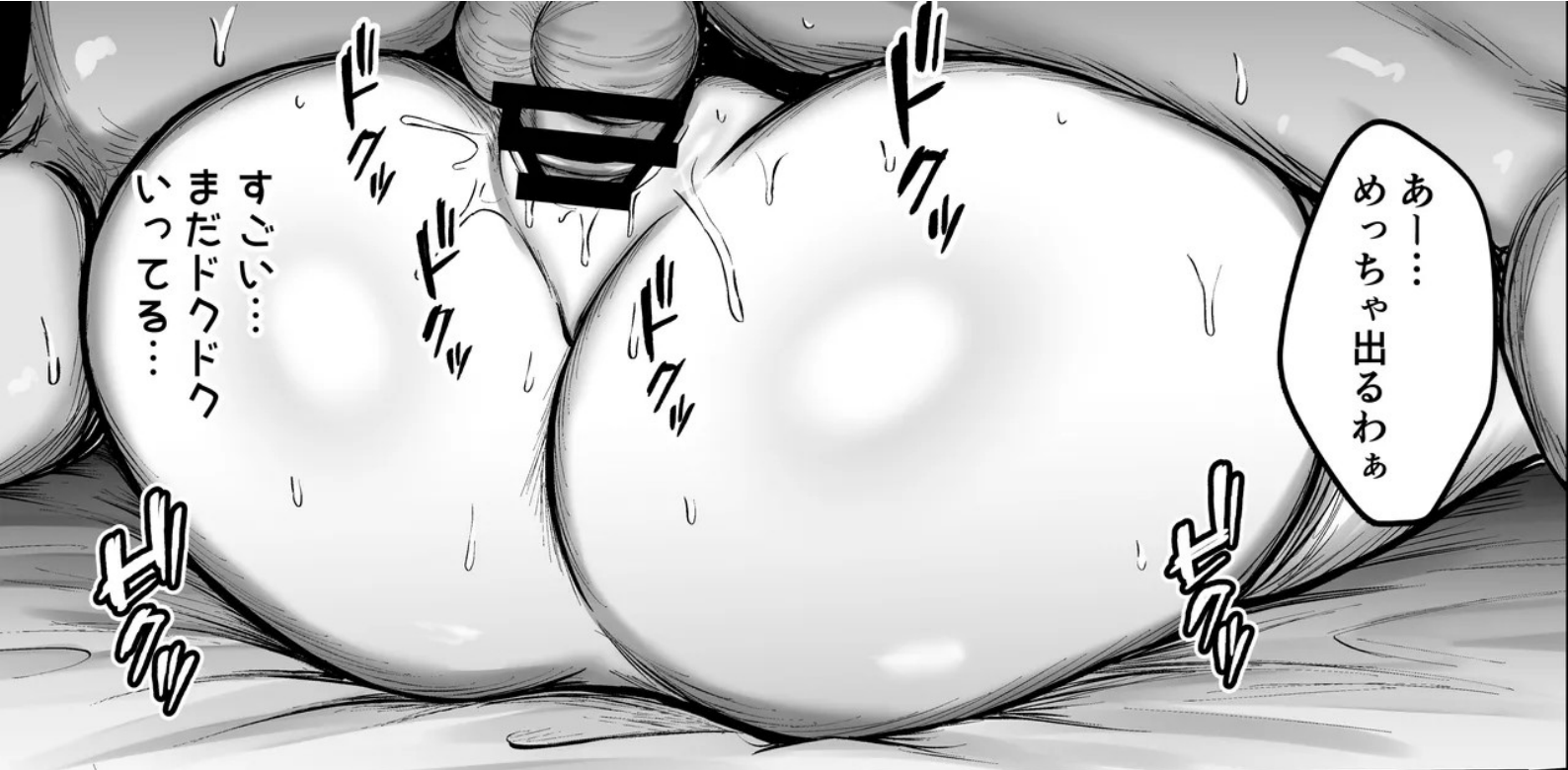
ドッ
ドッ
ドッ

ドッ
ドッ

ドッ
ドッ

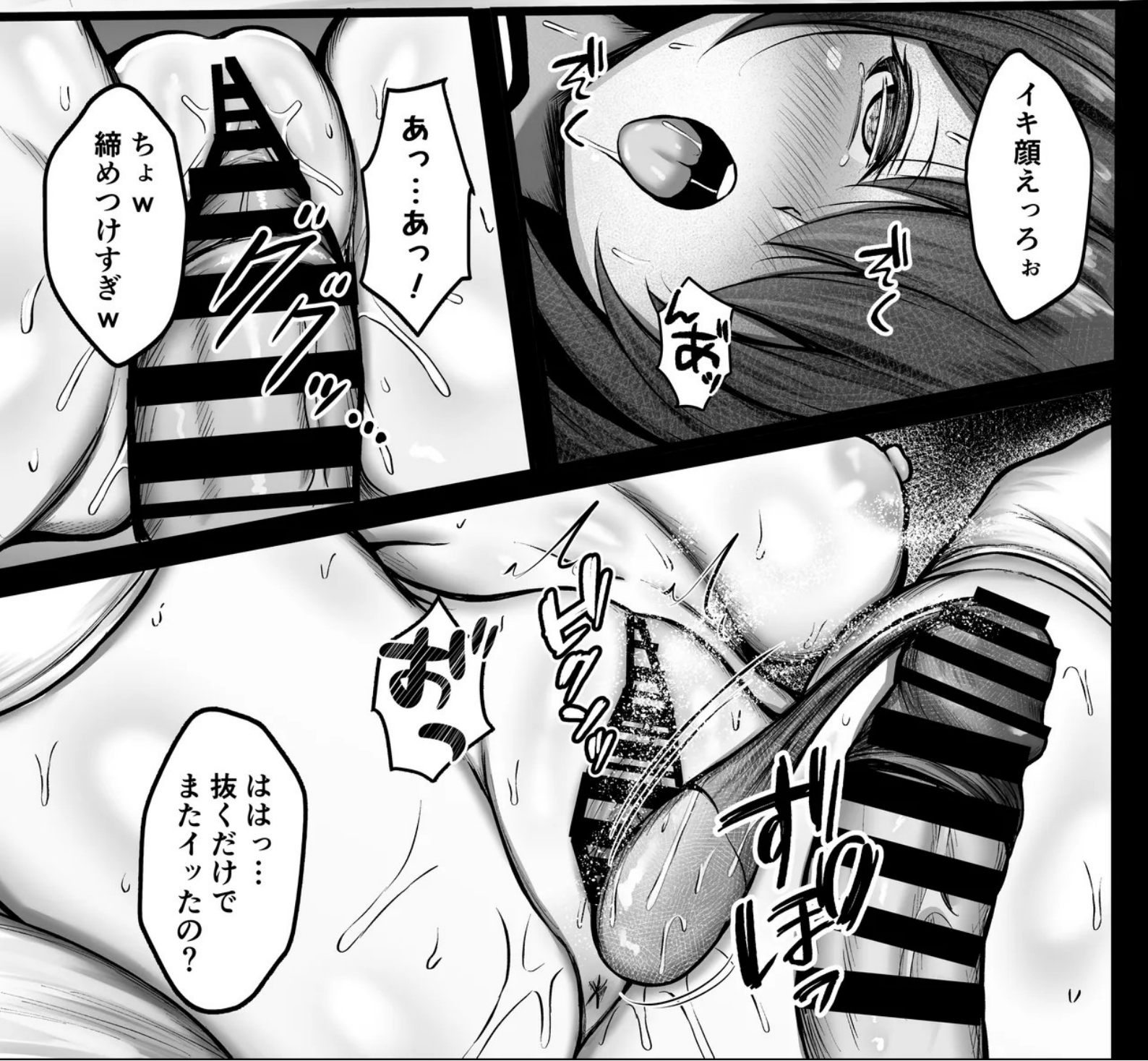
ドッ
ドッ





あー…
めっちゃ出るわあ

すごい…
まだドクドク
いつてる…



イキ顔えつろお

あつ…あつ！

ちょw
締めつけすぎw

ははっ…
抜くだけで
またイッたの？



いいねいいね

やっぱ真冬ちゃんには
そういう恰好がよく似合うわ

ビキ

こんな恰好
すごく恥ずかしい…

ビキ

ビキ

なのにあそこが
熱くなって…

ビクッ

そんなことッ

卑猥な恰好して
興奮してんの？

こんなに濡らしておいて
なに言ってるの？

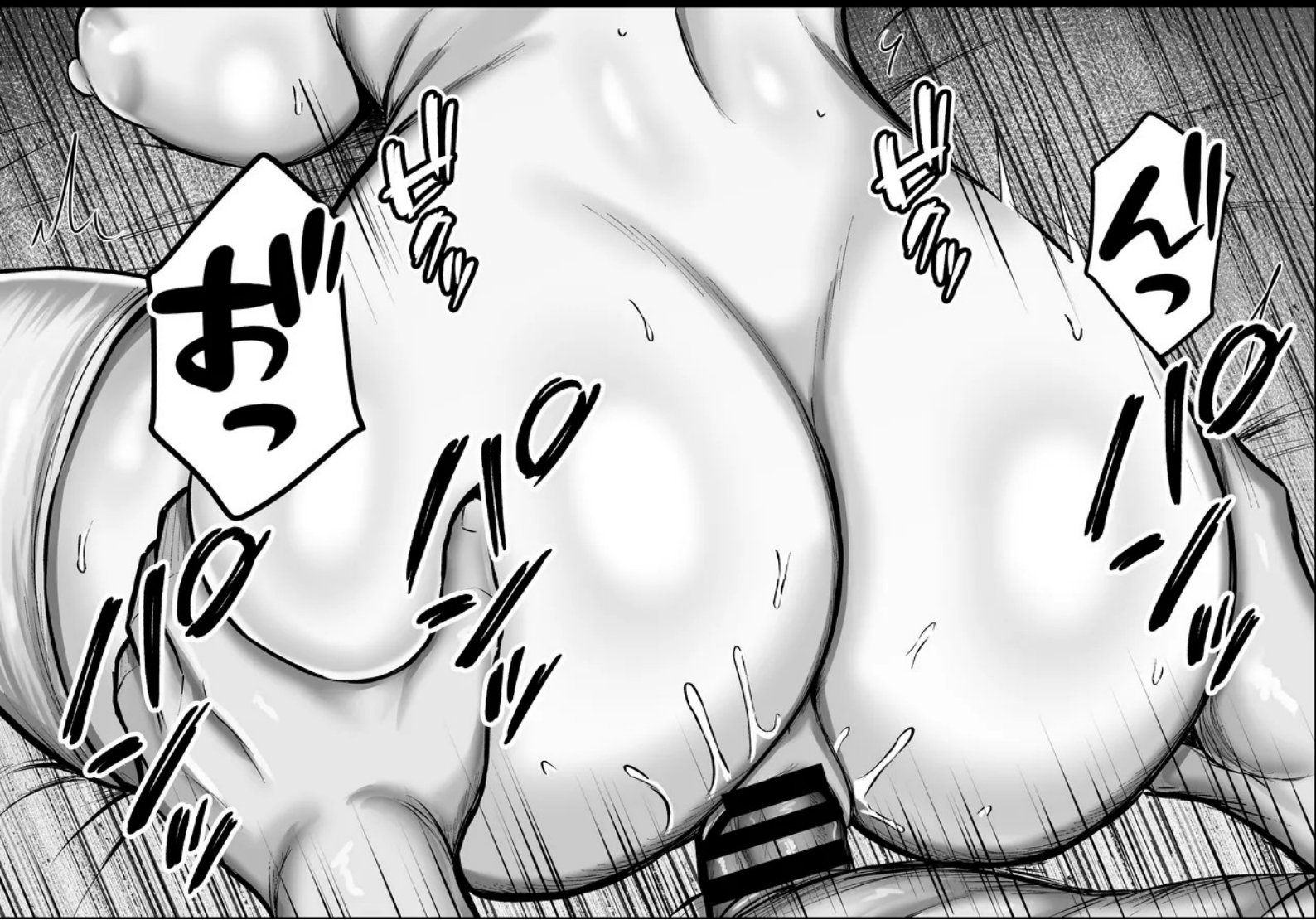
くちゅっ

んっ

ビクッ



…はい





はー♡

すっくすっ

はー♡

一番深いところ
グリグリされ
ちゃってるッ

グモッ

グモッ

されてるばっかじゃ
なくて自分からも
動いてみ？

ズッ
ズッ
ズッ

は…はいッ

ズッ
ズッ
ズッ

グモッ♡

グモッ♡

そうそう♪

ていうかめっちゃ
押し付けて
くるんだけどw

どんだけ
欲しがりさん
なんだよw

グモッ

グモッ

んっ

グモッ♡



なに？
違うの？

なら抜いちや
おうかなあゝ



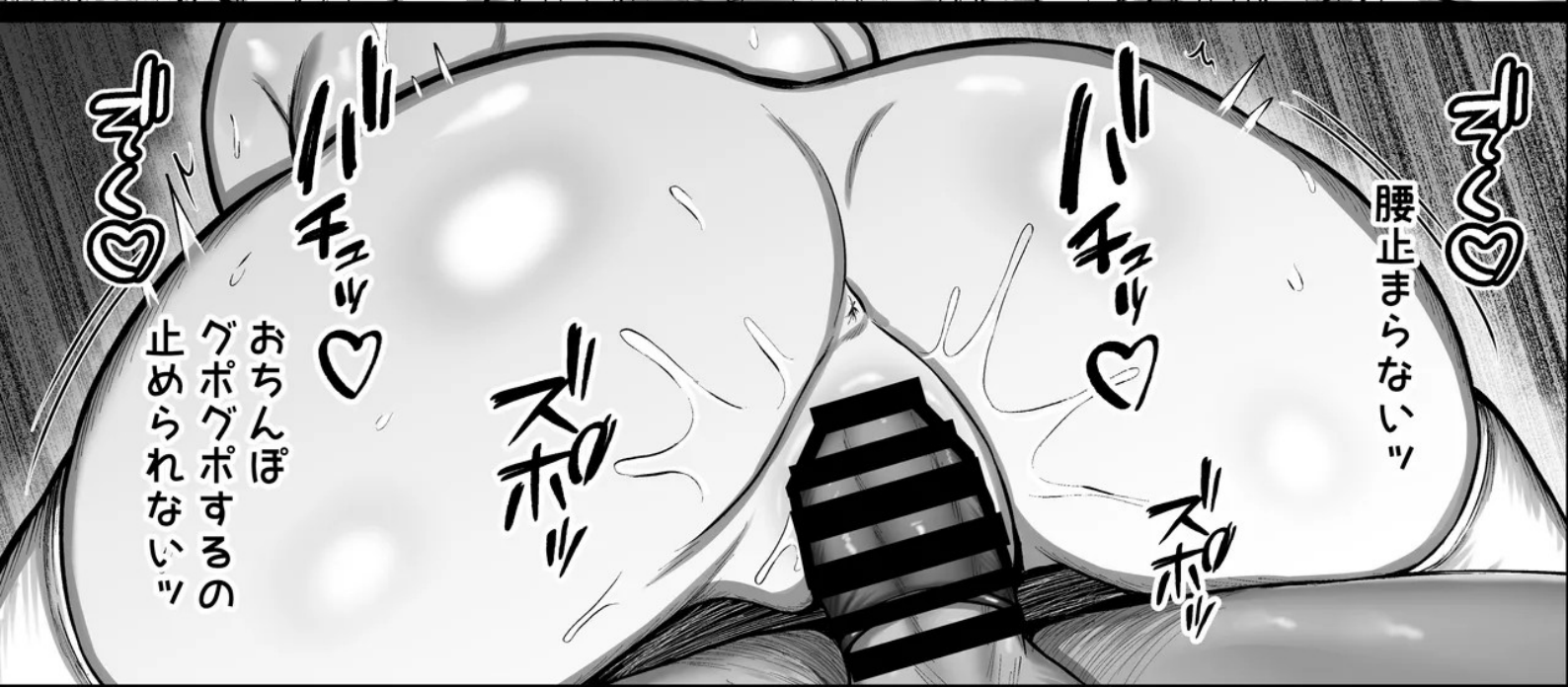
ははっ
そうかそうか
なら今度は上
になって動きなよ



そんな…ッ

このまんこ
ちんぽに
飢えすぎだろ

違いますんツ！
飢えてますっ
わたしのまんこ
ちんぽに飢えてますッ





お：オナニーツ
オナニーしてましたッ

ほら質問には
すぐ答えるっ



そ…それは…



ほんと見た目に
反してエロすぎっしょ

てかこの一年間
どうやって性欲を
発散させてたの？



へーw
どんくらい？

なにを
想像しながら？

この…ちんぽ…
先輩のちんぽを
想像しながら
おまんこ弄って
ました…

ま…毎日ですッ
毎日毎日…
自分で慰めて
ましたッ！



なんでシないの？

ていうか
まだシてないのが
驚きだけど

それは…



それって彼氏が
できたあとも？

ははっ…かわいいそw
そこは彼氏を
想像してあげなよw

は…はいッ



ドサッ

あっ！



おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

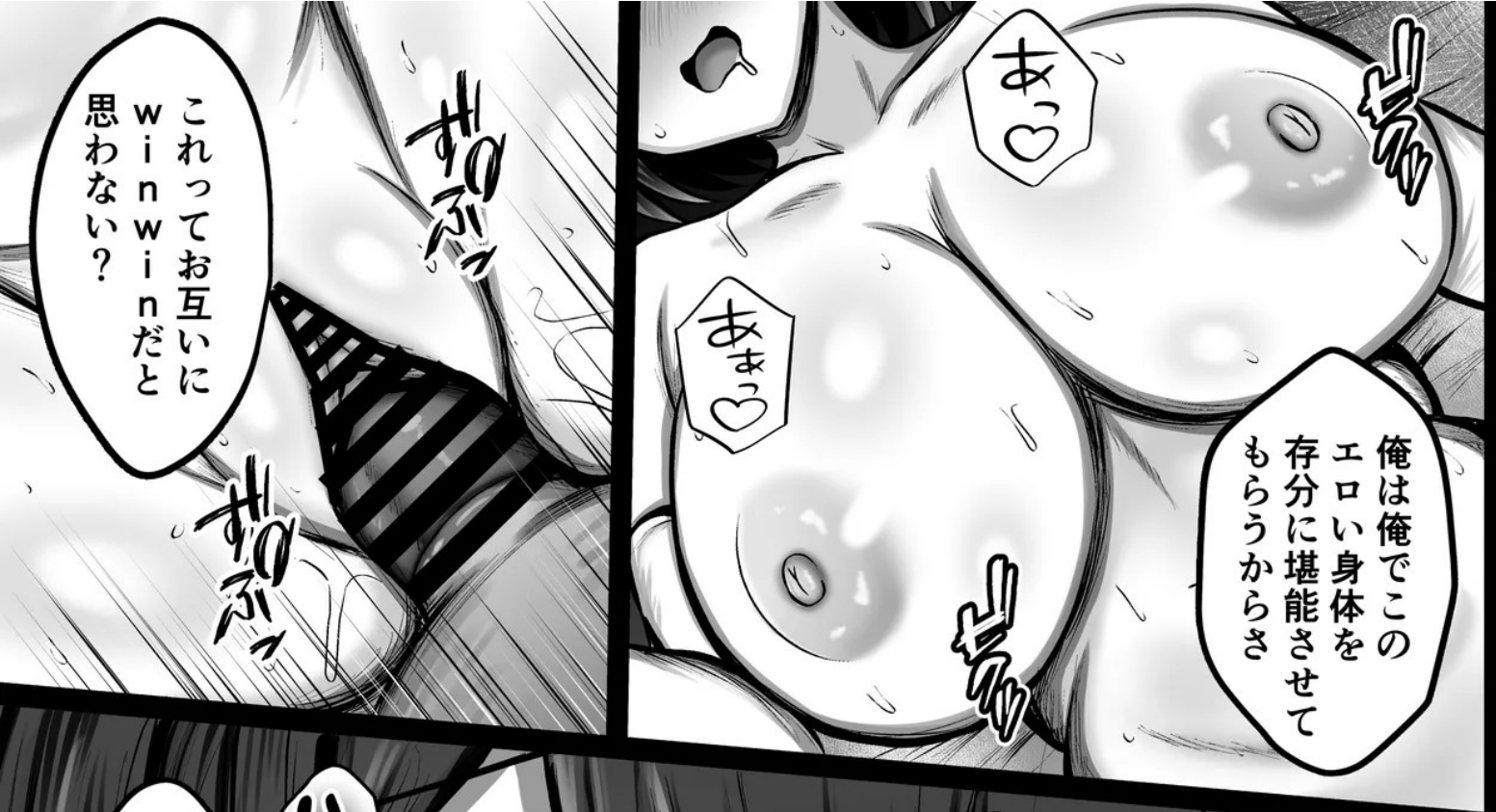
おっ

おっ

まあこんな
エロい本性
隠してるの
知られたくないか

でもこれからは
このちんぽで
いくらでも発散
させてあげるから
安心しなよ





真冬ちゃんの
まんこは
なりたがってるよ

グロ
ボッ

ん
お
オ

そんなに奥
グリグリされたらッ

グロ
ボッ

我慢は身体に
毒だって

ん
お
オ

もっとこの
ちんぽで
イキたいだろ？

ハ
ア
ハ
ア

イキたい…ッ

ハ
ア
ハ
ア

なんでも…？

ハ
ア
ハ
ア

ハ
ア

♡

ハッ
…なります

オナニーしながら
妄想してたこと
なんでも
してあげるよ？

なんだって？
よく聞こえないなあ

ニカッ

先輩のセツレに
なりますッ！

だからもっと
気持ちよく
してくださいッ

先輩のおちんぽで
おまんこズボズボ
してくださいッ！

悪くないけど
ひとつだけ
間違ってるよね

お

ズボ

ズボ





嫌なの？
ならここで
やめとく？

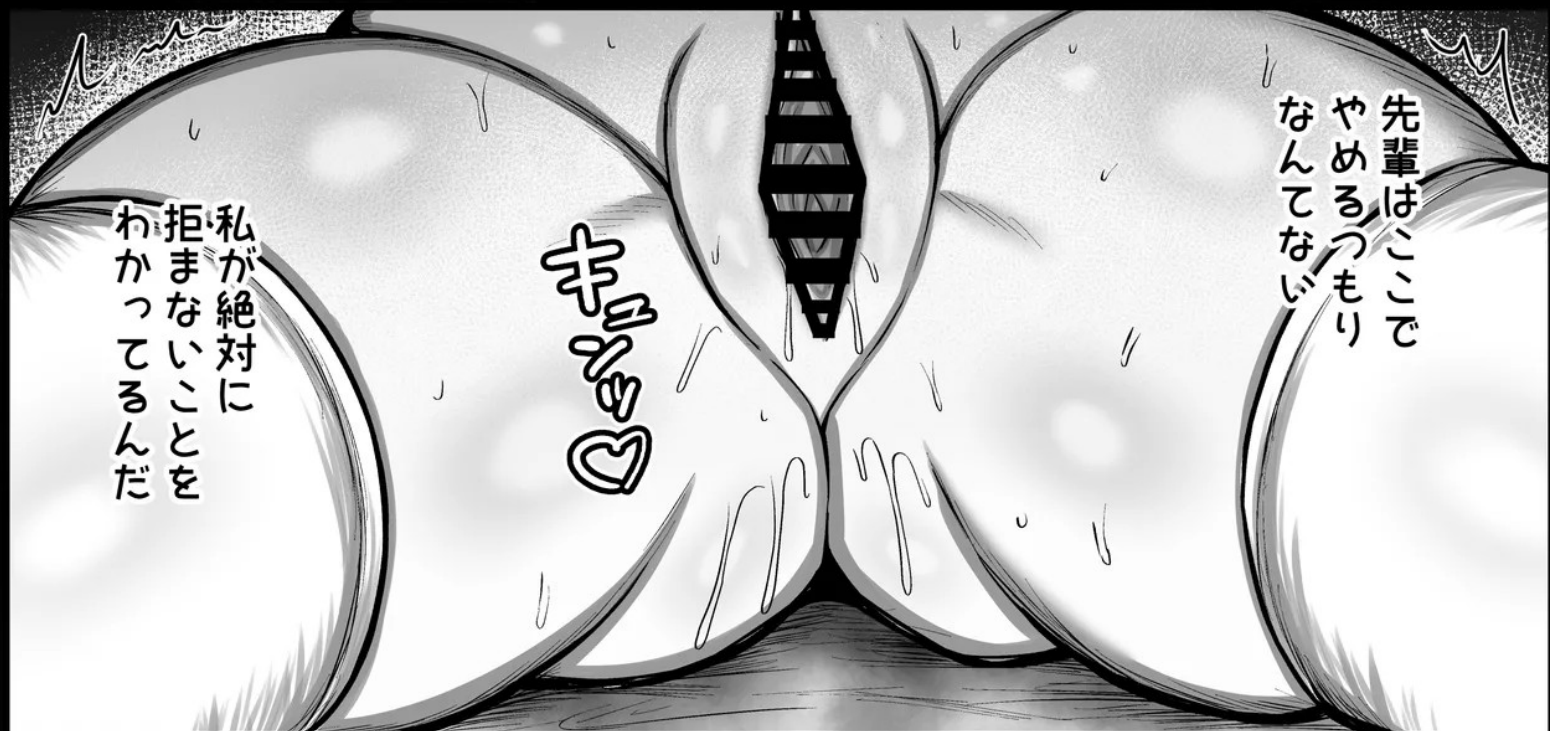
別に俺は
それでも
構わないけど？

嘘だ…



こっから先は
ゴム無しな？

えっ…
そ…それは…



先輩はここで
やめるつもり
なんてない

キミ♡

私が絶対に
拒まないことを
わかってるんだ



だって
私はもう

…先輩

ハア

ハア

先輩の生ちんぽ
ここにください

ドキ♡

おまんこの奥まで
ぶちこんでください♡

ドキ♡

このちんぽ無しでは
生きていけないから

そんな風にも
お願いされたら
聞いてあげない
わけにはいかないな

ズンッ

ズンッ

ほら
存分に
味わいなッ

ズンッ

おおおっ♡



その一線を
超えた瞬間

私は完全に

堕ちたと

思ったけれど

とちゅっ♡

とちゅっ♡

おっ

んおっ

それは違うと
すぐに気づいた



ほらどうだ
生の感触は

スロッ

スロッ

スロッ

スロッ

スロッ

スロッ

気持ちいいです♡

生ちゃんぽ

気持ちいいッ♡

スロッ

スロッ



それをいま
気づかされた
だけなのだ



私は初めから
堕ちていて



そしてこれからも
ずっと堕ちていく



はっ♡

このまま中出ししていいよな?

は...はい♡
中出ししてください♡

先輩の精液
おまんこの
中に注いで
ください♡

キゅ♡♡

もも♡♡



先輩のちんぽを
はしたなく
貪り続けていく

あっ

はっ♡

んっ

あーやべ...こっちも
気持ちよすぎて
もう射精そうだわ

スッポッ

スッポッ



いくううッ!

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

ゴッ

その脈動は
今までで
一番長く続き…

私の膣内に
熱い精液を
注ぎ続けた



私もまたその感触に
身体を震わせながら
今までで一番長い絶頂を
味わい続けていた



だって私には
それを直接伝える
勇気なんてない
のだから



ふと浮かんだ
なんの意味も
なさない
謝罪の言葉

—ごめんなさい

だからきつと

はーん♡

はーん♡

はーん♡

はーん♡

私はこれからも
彼を裏切り続ける

はーん♡

どろおへ...♡

はーん♡

はーん♡

もし過去が
変えられる
としても

先輩...
もつと
ください♡

はーん♡

私はきつと
同じ道を
選ぶのだから...

彼女は

初めから

陣ちていた



発行日:2025年5月1日
発行者:カンナ(サークル水面月)

この物語はフィクションです。
18歳未満の購入、閲覧、所持を禁じます
本作品の無断複写・転載・インターネットへの
アップロード・AI学習を禁じます。

© 2025 カンナ



